



私たちが「クリスチャン」つまり「神の子どもとされた」ということは、神を「天のお父さん」と呼び、神と交わることができることです。それがまさに「祈り」であり、クリスチャンであるその本質は、何よりも「祈り」に表されています。その「祈り」を教えてください、イエスキリストです。

イエスキリストが弟子たちに教えられた最初のことは、「神と二人だけになる」つまり「ひとりになる」ことです。すべてはそこからです。

① ひとりとなる

“あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見えておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。” 6

“しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。”

ヨハ 4:23-

② 私たちの目を神に向けるために

“また、祈るとき偽善者たちのようであってははいけません。彼らは人々に見えるように、会堂や大通りの角に立って祈る…” 5、2、16

“空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。…” 26

③ 祈りが応えられることを知るために

“ですから、彼らと同じようにしてはいけません。あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです。” 8

“これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。” 32

◎ 思い巡らし話し合ってみよう

ひとりとなることの大切さについて、次の言葉を思い巡らしてみましよう。「一人でいる者のみが交わりの中で生きることができるし、交わりの中にいるときにのみ私たちはひとりでいることができる。」（ボンヘッファー「共に生きる生活」）